



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2019年1月1日発行

第75号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL http://www.mimihara.or.jp (同仁会HP)

地域での貢献めざし 力を発揮しよう

未来を見据えた みみはらグループへ



私たちがめざす 地域ネットワーク

1950年2月、民家の2階を借りて診療所を開設以降70年近くが経過しました。同仁会が大きくなる中、また、医療情勢が変化する中で、夜間保育所から出発した保育園は社会福祉法人となり、政府の医療費削減政策による経済誘

グループ一丸で 健康・まちづくりへ

社会医療法人同仁会 副専務
社会福祉法人ひまわり会 理事
前田 貢光



導の中で泉州保健医療研究所が生まれ、まちづくりの一環としてNPO法人結いの会ともうずを立ち上げるなど同仁会から出発した関係者がいくつかが生まれました。こうした同一法人から出発した同じ理念を持つ法人が、思いだけではなく、体制として連携を強め、力を合わせて健康づくり・まちづくりを推進していくことも、事業や運営の効率化も図っていく形を確立するために昨年11月29日に「みみはらグループ運営協議会」を発足させました。

構成は社会医療法人同仁会、一般社団法人泉州メディカ、社会福祉法人ひまわり会、NPO法人結いの会ともうず、株式会社泉州保健医療研究所の5法人に準構成団体として健康友の会みみはらを加えた6団体です。今後は地域でもグループで連携した運営を強めていきたいと思っています。

「医療介護活動の二つの柱」の実践で急性期から在宅までを支える力を

社会医療法人同仁会 専務理事 穴井 勉

全役職員や友の会の仲間、地域の方々をはじめ、同仁会を支えて下さったすべてのみなさんに対し、この一年間の感謝を申し上げます。

同仁会は2018年、「医療介護活動の二つの柱」(Ⅰ無差別・平等の医療と介護、Ⅱ医療介護の質の向上)の実践を掲げて取り組んでまいりました。中心課題とした無料低額診療は、理事会集中討議を契機に着実に増え始めています。堺市にも協力を頂き、堺市ホームページや市民窓口で無料低額診療制度の紹介が始まっています。「二つの柱」の実践を支える日本国憲法を守るつと、1・5万筆を超える署名を積み上げてきました。2018年度は、経営的にも

前進し、2022年度債務超過解消計画の実現が視野に入ってきました。しかし、消費税10%で同仁会の負担は1・1億円増となります。社会保障守れの運動と共に、厳しい環境下でも法人を維持出来る経営構造づくりは引き続き課題です。

2019年も、2018年の重点課題(①総合病院の機能整備、②在宅介護の強化、③働き方の転換、④グループ運営)をさらに推し進め、急性期から在宅・介護、助け合い・支え合いまでカバーできる「みみはらグループ」として一体感を強めながら、より地域に貢献できる力をつけていきたいと考えています。



質の高い「在宅医療」の提供めざして

在宅医療支援センター
耳原鳳クリニック 管理師長
小川 淳子

病気になるっても「住みなれた家で安心して過ごしたい」との思いは、誰もの願いです。



「在宅でどんなサービスが受けられるの?」や「どこに相談すればいいの?」など「在宅医療支援センター」にお気軽にご相談下さい。

昨年スタートした新しい取り組みですので、現在、訪問エリアや申込み手順を紹介したリーフレットを作成し、法人内外の医療機関、介護保険に関わる事業所、行政機関などに訪問しながら連携を強めています。

みみはらグループでは、通院困難な方でも安心して在宅で療養していただけるようにと昨年10月より「在宅医療支援センター」を立ち上げ、訪問診療に関する相談の窓口として担当することになりました。

機能を持し発展させていく所存です。

急性期医療を支え機能の維持・発展を

全日本民医連評議員
耳原総合病院副院長
整形外科部長
河原林 正敏

2018年は総合病院が急性期病院としてこの地域に存在していく意義や役割を改めて問い直した



1年でした。地域の急性期医療を支える病院としての機能整備を進め、総合入院体制加算3の施設基準を満たすことができました。病院機能評価の受審では「秀でている」とされるS評価が過去最高の11項目と大躍進でした。

これらは職員一人一人の頑張りもさることながら、病院として地域から求められている役割に応えるべく努力を重ねている姿勢を評価された結果だと思えます。無差別平等の医療を実践するために集った全ての職員の力を患者さんのために結集し、急性期病院として、地域医療支援病院として、これからも地域から求められる病院機能を持し発展させていく所存です。